

- ① 国立大学病院では名大病院のみ。医療安全の国際基準 JCI 認証を更新しました。
 ・入院患者さん用無料 Wi-Fi サービス開始!
 ・新任のご挨拶
 - ② 医療現場における新型コロナウイルスの感染リスクを低減するウイルス不活化エアカーテン装置を開発
- ・教えて!この言葉「クローン病」
 ・健康講座
 「あなたの肩痛～本当に五十肩?～」
 ・病院からのお知らせ
 ・ナディック通信
 ・かわらばん HPのご案内

名古屋大学医学部附属病院

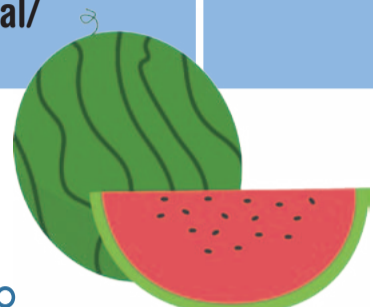
理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

- 基本方針 ● 1. 安全かつ最高水準の医療を提供します。 2. 優れた医療人を養成します。
 3. 次代を担う新しい医療を開拓します。 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーをご覧いただけます



TOPICS ① 国立大学病院では名大病院のみ。医療安全の国際基準 JCI 認証を更新しました。

名大病院は、2022年3月、国際的な医療施設評価認証機関である JCI (Joint Commission International) の認証を更新しました。更新にあたって審査の準備や職員への周知などを担った医師の皆さんに、取り組みの内容や課題、今後の展望についてうかがいました。



医療の質と患者安全の継続に高い評価

JCIは「医療の質」と「患者安全」を国際的な基準で評価することを目的とした機関です。世界で最も難易度の高い認証機関として知られ、審査基準が厳しいため、日本の大学病院では4施設、国立大学病院では名大病院が唯一、認証を受けています。認証後も3年毎に再審査があり、本年は初の更新となりました。今回はJCIの基準が刷新されたため、更新に向けて新基準に沿った当院の方針・手順書の改訂、60ページに及ぶ対策マニュアルの作成などから進め、それを全職員に周知して準備し、本審査に臨みました。コロナ禍のため画面越しのバーチャル審査となりましたが、15領域1、265項目に及ぶ審査の結果、当院の医療の質と患者安全は国際水準にあると非常に高い評価を得ることができました。

全員の質を高めるカルテ記載の徹底

医療の質と患者安全を継続する上で重要となるのが、カルテ記載です。JCIではカルテの記載内容を通じて診療が正しく行われているか、患者さんの同意が得られているか、職員間の引き継ぎが適切になされているかなどが審査されます。また、過去のカルテも速やかに提示できる管理体制が求められるため、職員向けに講習会を開いて手順などを確認しました。

カルテへの記載項目は非常に多く、現状は臨床現場の医師にとっても一仕事です。

ただ、カルテは当院が質の高い医療を提供していることの証となるため、今後はより効率のよいカルテ記載が可能となるよう、システム改修の際にJCI基準を踏まえた電子カルテの開発・導入を検討したいと考えています。

加えて大学病院は医師の入れ替わりが激しいため、JCI認証に関して必要な知識を共有し続けることも非常に難しい課題です。今回作成したマニュアルをさらに改善し、すべての医師がいつでも手元に置いて理解できるように準備を進めたいと思います。



患者さんご自身の安全のために

当院は国立大学病院では初めてJCI認証を取得した医療機関であり、現在も唯一の存在です。その理由は当院の医療安全に対する高い意識が、院内に伝統として継承されているからだと考えます。事故には至らなかった小さな出来事も重大な事故につながるかねない事例として残らず吸い上げ、検証を重ねることで、医療の安全は保たれると確信しています。

患者さんには何度もお名前やアレルギーの有無を確認するなどお手間をおかけしますが、医療事故はいつでもだれにでも起こる可能性があります。患者さんご自身の安全を守るためにも、引き続き名大病院の医療安全の取り組みにご理解・ご協力をいただけますようお願いいたします。

新任のご挨拶

消化器内科長/教授 川嶋 啓揮



この度、令和4年4月1日付で、消化器内科教授を拝命しました川嶋啓揮と申します。紙面をお借りして挨拶させていただきます。消化器内科は食道から直腸までの全消化管、肝臓、胆道、膵臓と多臓器に及ぶ多種多様な疾患を対象としています。それ故、一般的な消化器疾患診療にくわえ専門性も必要となります。他院で対処が難しい症例は大学病院で担当するなど連携を緊密にし、東海地方消化器内科の最後の砦としての役割を果たすべく、医局員とともに精進していく所存です。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

入院患者さん用 無料Wi-Fiサービス 開始!

新型コロナウイルス感染症による入院患者さんの面会制限が続く中、全国の病院で患者さん用のフリー Wi-Fi の導入が進んでいます。本院においても、入院中のフリー Wi-Fi の利用についてご要望を多数いただいております。この度、入院患者さんのコミュニケーション支援、快適な入院生活支援を目的として、集中治療室を除く病棟エリアに無料でお使いいただけるフリー Wi-Fi の提供を令和4年3月30日から開始しました。



TOPICS ② 医療現場における新型コロナウイルスの感染リスクを低減するウイルス不活化エアカーテン装置を開発

中央感染制御部長 八木 哲也



コロナ禍においては、人と人との間でのソーシャルディスタンスを保つことが、ウイルス感染対策として有効です。一方で、患者さんと医療従事者の積極的なコミュニケーションが欠かせない医療現場では、ソーシャルディスタンスの確保が困難な状況が多々あります。

アクリル板で物理的に遮断することがよく見られますが、音声遮断や視界不良などの原因となり、コミュニケーションの支障となっていました。そこで、名古屋大学の未来材料・システム研究所、工学研究科及び医学部附属病院中央感染制御部、並びに名古屋医療センターの共同研究チームは、気流の制御技術と深紫外線LEDによるウイルスの不活化技術を活用したウイルス不活化エアカーテン装置を開発しました。

本装置は、患者さんと医療従事者が卓上の四角形のゲートを介して向かい合う状態で使用します。深紫外線LEDによって清浄化された空気をゲートの上部のノズルから噴き出し、下部から吸引することで、ゲート部にエアカーテンを形成します。これにより両者の間に見えない空気壁ができ、お互いの呼吸を遮断できます。写真は、採血検査時に使用した例です。本装置により、採血業務をより安全かつ円滑に実施することができ、他にも受付などの対面業務の安全性向上も期待でき、医療現場での感染対策上の諸問題の解決に大きく貢献するものです。

教えて! この言葉

クローン病

炎症性腸疾患治療センター長 中山 吾郎

クローン病は、小腸や大腸を中心とした消化管の粘膜に慢性的な炎症を生じる原因不明の炎症性腸疾患です。10歳代後半から20歳代の比較的若い方に発症しやすく、患者数は年々増加傾向にあります。原因は十分には分かっていませんが、遺伝的な素因、食事や生活習慣などの環境的要因、腸内の免疫機構の異常などが複雑にからみあって発症すると考えられています。

主な症状として下痢、腹痛、発熱、体重減少などがあり、病気の経過の中で、腸が狭くなる「狭窄」、腸に穴が空く「穿孔」、腸と他の腸や臓器との交通が生じる「瘻孔」などの腸管合併症や腸以外にも様々な合併症を生じます(図1)。

現在クローン病を完治させる治療法はなく、内科的なお薬の治療で病気の活動性をコントロールして病状

を安定化させる「寛解導入療法」とよい状態を維持する「寛解維持療法」により、患者さんの生活の質(QoL)を高めることが治療の主体となります。一方で、内科的治療でコントロールできない「狭窄」や「瘻孔」病変などに対しては手術が必要となることも多く、最小限の腸管切除や狭窄を拡げる処置などを行って病態を「リセット」してその後の寛解状態を維持につなげていきます。

当院では2019年に「炎症性腸疾患治療センター(IBD センター)」を設立し、クローン病を含む炎症性腸疾患の治療に熟練した消化器内科医と外科医が診断と治療にあたっています。IBD センターではより詳しく治療の説明を記載したリーフレットも作成していますので、お気軽にお声がけ下さい。



図1

健康講座

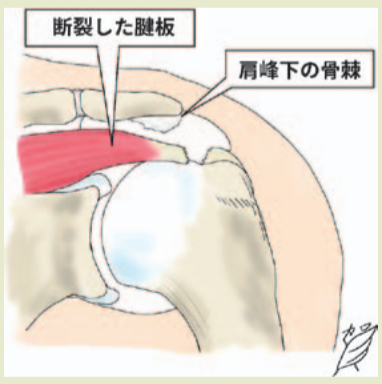
あなたの肩痛 ~本当に五十肩?~

私たちの外来には、肩の痛みで困っている患者さんが多く「私は五十肩でしょうか?」と聞かれることも少なくありません。一般的には50代の人々の肩が痛ければ五十肩と言われますが、そうではありません。

五十肩と呼ばれる病態は、医学的に「肩関節周囲炎」といい、肩の構造は正常なものの炎症が生じている状態です。炎症のため痛くなり、次第に関節が固くなり、そのうち自然に治っていくという経過をたどることが多いです。一方で、五十肩と思っても、中には「腱板断裂」といい、筋肉が切れてしまっていることも少なくありません。

私たちが行った超音波エコーによる肩健診のデータでは、腱板断裂と診断されたのは50代では20%、60代では30%、70代では50%程度と、年齢とともに増えます。しかし、たまたま指摘されたものの、全く困っていない人が多いのも事実であり、

まずはこのような「腱板が切れているけど困らない状態」を目指して治療を行います。しかし、痛みや肩が挙がらないなどの症状が続く場合には、関節鏡手術や、程度によっては人工関節手術が考慮されます。診断はMRIや、近年ではエコーも非常に有用となっており、人体への負担なく検査をすることが可能です。肩痛でお困りのあなたの肩を肩関節の専門家へ受診してはいかがでしょうか。



病院からの提案書からの改善報告

本院では、患者さんへのサービス・アメニティー等の満足度向上を目指し、患者満足度委員会において、院内に設置してある提案箱へ投函された提案書のご意見から、サービス改善策を検討実施しています。

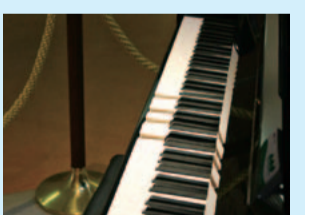
現在、1ヶ月あたり約65件のご提案をいただいております。提案書は、回収次第、現場で対応を進めるとともに、その後開催される委員会にて1件ずつ検討することで、院内のサービス向上に努めています。

サービス改善における主な対応については、外来棟1階中央待合ホールに設置されているモニターへ掲示しております。

- 患者さんが利用する設備や機器などは、日々の点検や定期的な更新を実施しております。2021年度下半期では、特に以下の改善を実施しました。
- 〈院内における主な設備面の改善〉**
- 1) 患者さん用駐車場出入口への駐車料金表(看板)の設置
 - 2) 中央診療棟A棟2階ピアノ広場のピアノ自動演奏用フロッピー補充
 - 3) 正面玄関配置の車いす10台、シルバーカート2台更新
- 〈院内における主な運用面の改善〉**
- 1) 「入院のご案内」(冊子)への携帯電話・スマートフォンのご使用について追記
 - 2) 本院ホームページ(交通アクセス)に、病院の外周を左回りして駐車場へ進入する経路を掲載



▲中央採血室横のピアノ広場



▲日中は自動演奏で穏やかなピアノの音色を楽しめます

Nagoya Disease Information Center ナディック通信 ナディックの利用休止について

患者情報センター(広場ナディック)は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用を引き続き休止しています。それに伴い、毎月開催していた教室(手作り、ちぎり絵、折り紙)は当面の間休止。患者の集い、認知症サロンなどの患者さん向けのイベントについても次回の開催予定は未定です。

肝臓病教室については当面の間オンライン(動画配信)で実施する予定です。配信は、病院もしくは肝疾患診療連携拠点病院のホームページ(<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kyoten/liver/>)をご確認ください。

がん患者さん向けの「ウィッグ・頭皮ケア相談」については外来棟1階「地域連携・患者相談センター」にてがん相談員が随時対応しております。

(問い合わせ先 地域連携・患者相談センター 052-744-2663)

肝疾患診療連携拠点病院 ホームページ

